



# 編さん便り

## Chiba-shishi News Letter NO.6 2011.3

### 加藤博仁氏収集資料

昨年12月8日付で矢作町にお住まいの加藤博仁氏より、多数の貴重なコレクションをご寄贈いただきました。

加藤氏は、元千葉市職員で、在職中は市内図書館の館長を歴任。定年後も千葉県図書館協議会の委員としてご活躍されました。図書館の仕事に携わるなかで、一般的な図書館では収集しない、明治から昭和初期の大衆文化に関わるものをコレクションしたいと思われたということです。文化だけでなく、当時の世相も見ることができる、雑誌やその付録から収集を開始し、ある時期以降郷土史に関わるものも集め始めたということでした。「他へ散逸しないことが大事」という大前提のもと、それまで収集していた大衆文化関係のものななかからの関連部分のピックアップはもちろん、特に必要と思われる資料は別途収集されています。これまでほどでは無いにせよ、重要と思われる資料については今後も収集していきたい、また今回寄贈したように、必要ところで活用して欲しいとのご希望でした。

コレクションには、千葉県や千葉市に関する文献資料はもちろんのこと、古い映画のポスター・プロマイド等の資料や雑誌、さまざまなレコード等の音楽資料や映像など、多岐にわたる内容が含まれます。加藤氏のご興味の範

囲はとても広く、今回その中から千葉市に関わる資料を1100点余りの資料をご寄贈いただきました。



絵はがきコレクションと地図（一部）

すべてが貴重な資料であることは勿論ですが、なかでも絵葉書のコレクションは秀逸です。分厚いスクラップブックに整然と並べられた絵葉書は、491点を数えます。これらの絵葉書は観光案内のため、あるいは何らかの記念行事のために作られたものです。現在では失われてしまった明治・大正・昭和にかけての千葉の様子がよくわかります。他にも、千葉を舞台にした文学作品に関する資料も多く、昭和15年に書かれた鉄道聯隊が舞台となった作品『指導物語』は翌年映画化されていますが、そのVTRも収集する徹底ぶりです。どの資料も現在では、収集することが難しい貴重な資料であり、この貴重なコレクションに出会えたことは望外の喜びです。

市史編さん事業をはじめ、郷土博物館での展示など、さまざまな形で発信・活用していきたいと思えます。

\*平成23年秋頃、市史ミニ企画展「加藤博仁氏寄贈資料展」(仮題)を開催する予定です。詳細は、決まり次第千葉市立郷土博物館HPなどでお知らせいたします。



コレクションの一部

### 資料、求め。

古文書をはじめ、古い資料・古写真などの情報を集めています。上記加藤氏のようなコレクションのみならず、ご家庭で撮影されたスナップ写真であっても、当時の「千葉」をみることでできる貴重な資料です。もちろん、いわゆる「古文書」も大歓迎です。聞き取り調査も実施予定です。戦時中の体験、幼い頃の記憶等、千葉市域に関するお話いただける方がおられましたら、ご連絡ください。提供頂いた資料、お話の内容の扱いには十分配慮致します。皆様からの情報提供をお待ちしています。

# 祝 三浦茂一先生 児玉幸多記念賞受賞

2010年11月14日(日)、地方史研究協議会大会・総会が千葉県成田市で行われ、その席上において、千葉市史編集委員会の委員長である三浦茂一先生が児玉幸多記念賞を受賞されました。

この賞は、日本近世農村・交通史の権威である児玉幸多先生が地方史研究協議会の会長を退かれた後、先生の業績を記念して、毎年地方史研究協議会の大会において、地方史研究に特に尽力した人物へその業績への感謝の意をこめて贈られています。今回の成田大会では、その準備委員会において全員一致で三浦先生を推薦したということです。

三浦委員長は、千葉県史編纂室主幹で定年退職後、千葉県文書館嘱託を勤められました。主な著書・編著に『千葉県議会史』(共同執筆、千葉県議会)、『千葉県教育百年史』(共同編集、千葉県教育委員会)、『千葉県の歴史』(共著、山川出版社)、『高等日本史・最新版』(共著、帝国書院)、『図説・千葉県の歴史』(責任編集、河出書房新社)、『千葉県の百年』

(共著、山川出版社)などがあります。千葉市史は勿論ですが、県内の多くの市町村史を手がける、千葉県の近代史の第一人者です。



先に刊行を終えた『千葉県の歴史』(共著、千葉県史料研究財団)は、先生の長年にわたる実績の集大成ともいべきものとなりました。今回、それらの業績が高く評価され、受賞の運びとなりました。

千葉市史編纂が始まったのは昭和44年ですが、三浦委員長はその後昭和59年より一貫して委員を勤めていただいております。これまでの市史刊行は近世が中心であったのは事実ですが、その間においても『千葉いまむかし』への執筆をはじめ、研究講座での講演など、また近現代史部会の長としても、千葉市史編纂事業をリードしていただいております。

今回の受賞を心よりお慶びするとともに、今後もより一層のご活躍を祈念いたします。千葉市史はこの後、近現代の資料集を刊行していく予定です。更に三浦先生のお力をお借りして、よい『史料編』を作って参りたいと思います。おめでとうございます。

\*写真はリッチモンドホテル成田での授賞式の様子。

地方史研究協議会常任委員西村健氏(すみだ郷土資料館非常勤学芸員)撮影の写真をご提供いただきました。



## Book



### 『千葉いまむかし』No. 24

【紙上☆古文書講座】千葉町の寺領と海防  
県都千葉町の町村制  
戦国期の千葉氏御一家  
【投稿論文】戦国期房総における商人の一樣態  
【活動報告】平成21年度「江戸と千葉」研究会報告要旨  
『千葉いまむかし』は千葉市立郷土博物館受付でお求めください。郵送もできます。

**B5版 | ¥500 | 2011.3.31発行**

ちば市史編さん便り6号をお届けします。まずは、今年度千葉市立郷土博物館へ寄贈された、加藤博仁氏収集資料の概要をお知らせしました。『史料編 近現代』の編纂や館の展示で有用な、非常に貴重なコレクションです。また、千葉市史編集委員会の委員長として、長く千葉市史編纂をリードして下さった三浦茂一先生が児玉幸多記念賞を受賞されました。ますますのご活躍をお祈りいたします。前号でお知らせした今年度の研究講座の講師、中村政弘先生の肩書きが誤っておりました。正しくは「四街道市立旭中学校教諭」です。伏してお詫び申し上げます。\*編集中発生した、東北地方太平洋沖地震被災者の方々へ、心よりのお見舞いを申し上げます。



# 明治期の新聞を読む

## ～新聞記事入力ボランティアの活動～



千葉市史編さん担当では、明治以降に発刊された県内の地方紙及び中央新聞の千葉版などのコピーを収集しています。

明治期の代表的な地元新聞は、明治14年発刊の『千葉公報』から始まり、『総房共立

新聞』・『東海新聞』へ継承された自由党・政友会系の新聞と、明治25年発刊の『千葉民報』から『新総房』へ継承された改進黨系の新聞の二紙があります。初期はそれぞれの政党色が濃く出ており、当時の政党間の主張の対立が、紙面からもよくわかります。明治36年には『千葉毎日新聞』が発刊され、以後これを含めた三派鼎立時代となっていました。『千葉毎日新聞』は発刊当初、社会主義に関する記事を多く載せていたり、それまでの二紙とはまた異なる特徴がありました。

時代が下るに従い、各紙とも政党色は少しずつ薄れてはいき

**「さ」** さやかな貢献  
定年退職して八年が過ぎた。人の習性で暇で暇でしようがない筈が今では毎日何かと忙しい。歴史が好きで市民大学や古文書講座等に応募して勉強している。贅沢したいとは思わないが、何か少しでも社会のお役に立ちたいと考えている。そこに市史編集のお手伝いの募集があって、出来るかしらと危惧しながらも応募したら暖かく迎えていただいた。明治時代の新聞の千葉市に絡む記事のリスト作りだ。老化した脳にとっては難しい作業であるが何とかなっている。市史編纂に百万分の一でも役に立っていると思うとやりがいもある。時々関心事の話題も聞けるので楽しくやっている。マイペースでやれるのも助かる。脳も若返るのではと期待している。  
(新聞記事入力ボランティア；加藤聖吉氏)

**ボ** ランティアは無形の宝を受け取るものと聞いていました。新聞記事入力ボランティアに参加し実感。担当は明治三十年代、日本が世界に進出しようという時代。書かれた記事の自由さに驚かされ、その奔放な筆鋒に、維新から僅か三十年余の日本の躍動する体温

**拡** 大鏡を片手に明治の新聞（今は明治33年7月分）を見ながら千葉市関係の記事を要約し、パソコンに入力する作業は私にとっては結構神経を使います。でも楽しみも出来ました。当時の生き生きとした世相に触れられる、お昼に好きな日本蕎麦を食べに行く、

ますが、さまざまな記事や広告から、当時の千葉の様子を垣間見ることができます。

千葉県は、地元新聞の育たない場所として全国的にも有数の土地であったようですが、明治の代表的な地元新聞をはじめ、昭和期の全国紙の千葉版まで含めて、その量は膨大です。

そのため牛の歩みにはなりますが、こうした新聞から千葉市域に関係する記事のデータをとることは、近現代の千葉の姿を再構築する一端になります。近現代の史料編を作るための重要な基礎データということで、逐次作業を進めています。

そこで、これまでの古文書整理作業をお願いしている市史協力員の方々と別には、平成22年度後半より新規にボランティアを募集し、ご協力いただいています。作業開始からおよそ二月あまりになりました。手探りで始めたこともあり、いろいろと事務局側の不手際もありますが、皆さまに助けられて何とか活動をしています。今回、そのうちの何人かに感想を伺うことができ、あわせて掲載させていただきました。

**週** に一度、明治時代にタイムスリップしている。当時の新聞記事をパソコンに入力しているのだが、読むたびに内容の重さを感じる。今日の新聞はムダを省き、わかりやすく、読みやすくがモットーだ。対して、当時は文字は当然のことながら、記事が実に重々しい。いい例が議会の記事。千葉郡議会などは必ず、〇〇議長の開会宣言から書き出しが始まる。今の新聞では、まずお目にかかれないし、記者も書かないだろう。当時の議会の重さ、さらには議長の権威がわかる。それにしても、たった一つの記事から明治という時代を知ることが出来るのだからおもしろい。これがまた新聞の魅力なのかも知れない。そんな思いを抱きながら記事の入力を楽しんでいる。  
(新聞記事入力ボランティア；芝茂男氏)

を受け取りました。思いがけぬ市史編纂のお手伝いですが、新聞の頁を繰りながら、母方の祖母の姓が「下総」というのも何かの縁かしらと密かに思っています。  
(新聞記事入力ボランティア；N.S)

時にはお城の天守閣から東西南北の景色を眺めるといった楽しみです。週一回のボランティアですが市史編纂のための資料として少しでも役立てばと思ひ頑張っています。  
(新聞記事入力ボランティア；宍倉猛氏)

# 平成23年度 千葉市史主催講座のご案内

## 1 市史研究講座

定員 200名。於千葉市民会館小ホール。

対象；千葉市に在住・在勤・在学の方。

各講座 80分（どの日程も 13:20～を予定）。

第一回 千葉市の夜明け―市制施行 90年―	
6/12 (日)	町村制成立期の千葉町 三浦茂一氏（千葉市史編集委員会委員長）
	明治初期に行われた薬販売の一例 ―柏井の川口家文書から― 中澤恵子氏（千葉市史編集委員会委員）
7/17 (日)	市制施行前夜の千葉町 神山知徳氏（千葉市史編集委員会委員）
	市制施行と千葉市民 小林啓祐氏（千葉市史編集委員会委員）
第二回 戦国時代以前の千葉氏	
11/12 (土)	室町期の千葉氏について ―胤直期を中心に― 石橋一展氏（野田市立北部小学校教諭）
	中世千葉の経済と信仰 ―僧侶の動きからわかるもの― 湯浅治久氏（市川市歴史博物館）

\*第一回の講座は二日間通してのお申し込みとなります。資料代として、各回 100円をご負担いただいています。未定部分を含め、内容を一部変更する場合があります。

## 2 古文書講座

### 初級古文書講座

古文書読解初心者対象。テキストは江戸時代に書かれた古文書の複写。くずし字の基礎を学ぶ講義形式の講座。前期・後期の2回開催（各5回）。日程・講師とも未定。  
※前期・後期とも、同内容のため重複しての受講はできません。予めご了承ください。

### 中級古文書講座

古文書に慣れ、ある程度読める方を対象。テキストは江戸時代に書かれた古文書の複写。全5回。日程・講師とも未定。  
\*どちらも定員 30名。於千葉市立郷土博物館講座室。資料代として、100円をご負担いただいています。

どの講座も往復葉書でのお申し込みです。

**住所・氏名(ふりがな)・年齢・性別・電話番号**を明記のうえお申し込みください。

詳細は市政だより・郷土博物館 HP でご確認ください。  
[http://www.city.chiba.jp/kyoiku/shogaigakushu/shogaigakushu/kyodo/kyodo\\_top.html](http://www.city.chiba.jp/kyoiku/shogaigakushu/shogaigakushu/kyodo/kyodo_top.html)

※申込み多数の場合、抽選となります

## 市民の声

### 中級古文書講座を受講して

「乍恐以書付奉願上候」も読めずに千葉市史主催の初級古文書講座を受けてから二年。細々と学習を続け、今回中級講座に挑んでみることに致しました。

配られたテキストの表題は…「御裁許証文訳書」。史料の状態もよく綺麗な字体でしたので、(読める読める…)と喜んだのもつかの間、近世文書の言い回しの複雑なのは常ですが、未知の言葉、数値換算、文章表現等難しくほとんど内容がつかめません。幸い先生の丁寧な解説のお陰で終了時には何とか理解できましたが、改めて「古文書を読む」ことの難しさを感じま

した。

一つの文書に関連文書や周辺資料を集めながら解釈

してゆくのは大変な作業であり、また限られた記録でしか社会を測ることのできない「もどかしさ」は残りますが、遠い昔の出来事が現代にも通じていることを発見したり、当時の人々の営みが垣間見えたりするのが、古文書学習の楽しいところなのかもしれません。

(平成22年度中級古文書講座受講 城戸淳子氏)

